

17 ネットいじめにならないために (インターネット)

5 皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、ゴリけんがお届けします。

10 大人から10代の子どもまで、多くの人が使っているSNS。誰もが自由に発信できる一方で、勝手な思い込みからいじめに発展する問題も起きています。今日は、ネットの誹謗中傷ホットラインを運営するセーフラインインターネット協会のアドバイザー、置鮎正則さんに、身近な事例を教えてくださいました。

15 仲良しのA子ちゃんとB子ちゃんが、SNSでやりとりしています。ある日、A子ちゃんがSNSで「今度の日曜、遊びに行こう」とB子ちゃんを誘いました。いつもならすぐに返事があるのに、「どう？行ける？」「ねえ、ちゃんと見てる？」と何度送っても返事がありません。A子ちゃんはカッとして、「B子ちゃんに無視された」とクラスのみんなが見るSNSでつぶやいてしまいました。

20 それから数日後、友だちのSNSには、「B子ちゃんを無視しよう」という書き込みがあふれていました。みんなに仲間はずれにされたB子ちゃんは学校を休むようになり、A子ちゃんはやく、自分の投稿が原因だったと気づいたのです。

30 置鮎さんは、「B子ちゃんは無視したのではなく、食事中で親御さんの約束からスマホを見ていなかっただけでした。実はネット上でいじめは、自分勝手な判断や思い込みなど、小さな行き違いが発端になることが多いんです。日常のいじめも同じかもしれません、ネットの場合は言葉が残り続けます。何度も目にするので、心に受けた傷がかさぶたのようになってしまうのです」と注意を呼びかけます。

35 私たち大人社会でも、子どもの担任の先生と道端で話していたところを、ママ友から「先生に告げ口してた」とSNSに書かれて、グループで孤立してしまうことなどがあります。投稿した多くの人は、「そんなつもりじゃなかった」と言いますが、小さなきっかけから深刻なネットいじめにならないためにも、私たち一人一人が発信する言葉に責任を持つことが大切です。何気ないひと言が、SNSで拡散されれば思いがけない結果にもなる危険性を認識し、顔の見えないネットの上であってもお互いの人権を思いやったやりとりを心がけましょう。